アサリ養殖試験の取組支援

姶良･伊佐地域振興局林務水産課

【背景・目的】

管内では，資源の減少，魚価の低迷，高齢化等で，漁船漁業の経営は厳しい環境にある。そのため，漁業者の所得向上を図る目的に，近年，国産品の需要が高まるアサリに着目し，鹿児島湾奥という静穏で栄養に富んだ海域特性を利用したアサリの養殖試験を実施し，養殖技術の確立を目指す。

【普及の内容・特徴】

アサリ養殖試験は錦海漁協アサリ研究会により平成25年度から開始され，今年度はチャレンジ！元気な水産業創出支援事業（県単）を活用し実施された。

（独）水産総合研究センター養殖研究所が開発した「網袋式天然採苗」＋「海面垂下式養殖」技術及び当技術を実証した三重県鳥羽磯部漁協の取組例を参考に養殖試験を行った。

天然採苗＋養殖を目的に，小石（粒径10mm）と貝殻を約10kg詰めた網袋（60cm×60cm，目合い4.5mm)を海岸に設置し，網袋内に着底したアサリの採苗個数や成長，生残等のモニタリング調査を実施した（図1～2，表1)。

また，重富海岸沖，加治木港沖において，平成27年2月に，網袋で天然採苗した平均殻長21.0mmのアサリ20個体をコンテナカゴに収容し，水深1～3m下において，垂下式養殖試験を実施した（図5，表2)。

表１　天然採苗用網袋の設置状況

設置年月	場　所	設置個数
H25.6	重富海岸	26
	重富漁港外	10
H25.11	白浜	60
	重富海岸	90
	日木山川河口	30
H26.11	重富海岸	1,300

表２　垂下式養殖用カゴの設置状況

設置年月	場　所	水深	カゴ数
H25.12	加治木港沖	1～3m	3個
H27.2	重富沖	1m	8個
	加治木港沖	1～3m	5個

【成果・活用】

H25年11月に重富海岸に設置した網袋の中は，平成27年3月には，平均227個体のアサリの着底が確認できた（図3)。また，H25年6月に設置した網袋で，9月に採苗した平均殻長15.8mmの春生まれ群と推定されるアサリは，翌年の10月には平均殻長33.7mmに成長し，生残率は91.4%であった。これらのことから，網袋内で天然採苗した地種のアサリは高い生残率を保ちながら，約1年弱で出荷サイズに達することが確認できた(図4)。

なお，垂下式養殖については，H25年12月に設置したカゴは，試験途中で係留ロープの切断事故で海底に埋没してしまい，ほとんどのアサリがへい死してしまった。

網袋式による本養殖試験は順調に成果を上げ，採算の目処も立ったことから，平成27年9月に区画漁業権の免許を取得し，漁業者による本格養殖が開始される予定である。

図1　養殖試験の場所

図２　天然採苗＋養殖用に設置した網袋

図３　網袋の中のアサリ

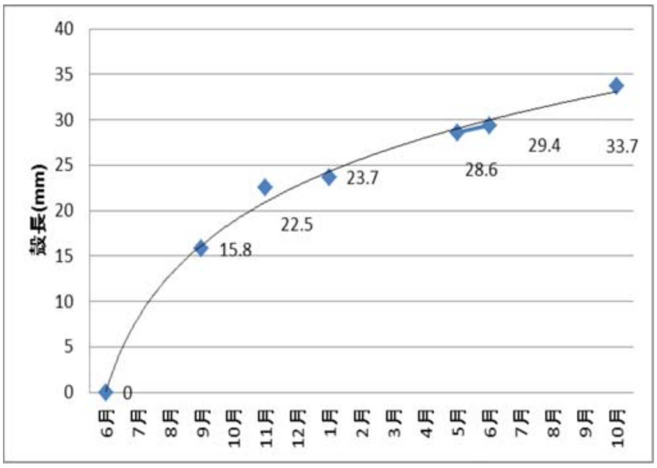

図４　網袋内のアサリの成長
（H25年6月設置分）

図５　垂下式養殖試験の状況（重富沖）